

製品名: BLM (リン酸化 Thr99) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04323

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	159kDa

抗原情報

遺伝子名	BLM
別名	BLM; RECQ2; RECQL3; Bloom syndrome protein; DNA helicase; RecQ-like type 2; RecQ2; RecQ protein-like 3
遺伝子 ID	641.0
SwissProt ID	P54132
免疫原	抗血清は、Thr99 のリン酸化部位周辺のヒトブルーム症候群由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 65-114

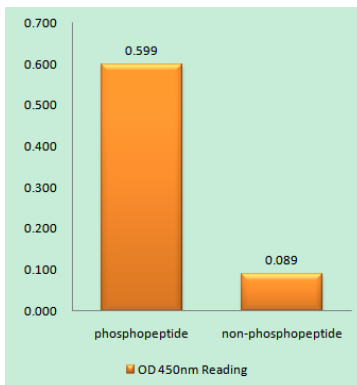
背景

ブルーム症候群遺伝子産物は、DExHボックス含有DNAヘリカーゼのRecQサブセットに関連し、DNA刺激性ATPase活性とATP依存性DNAヘリカーゼ活性の両方を有する。ブルーム症候群を引き起こす変異は、ヘリカーゼモチーフを削除または改変し、3'-5'ヘリカーゼ活性を阻害する可能性がある。正常なタンパク質は、不適切な組み換えを抑制する働きをする可能性がある。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：BLMの欠陥がブルーム症候群（BLM）[MIM:210900]の原因である。BLMは常染色体劣性疾患であり、出生前および出生後の成長不全、日光感受性毛細血管拡張性皮膚の低色素性および高色素性、悪性腫瘍素因、および染色体不安定性を特徴とする。機能：DNA複製および修復に関与する。マグネシウム依存性、ATP依存性のDNAヘリカーゼ活性を示し、一本鎖および二本鎖DNAを3'-5'方向に解く。オンライン情報：BLM変異データベース、PTM：DNA損傷に反応してリン酸化される。リン酸化には、FANCA-FANCC-FANCE-FANCF-FANCGタンパク質複合体とRMI1の存在が必要である。類似性：ヘリカーゼファミリーに属する。RecQサブファミリー。類似性：ヘリカーゼATP結合ドメインを1つ含む。類似性：ヘリカーゼC末端ドメインを1つ含む。類似性：HRDCドメインを1つ含む。サブユニット：BRCA1関連ゲノム監視複合体（BASC）の一部であり、BRCA1、MSH2、MSH6、MLH1、ATM、BLM、PMS2、およびRAD50-MRE11-NBS1タンパク質複合体を含む。この関連性は、細胞周期全体および核内ドメイン内で変化する動的なプロセスである可能性がある。ユビキチン化されたFANCD2と相互作用する。RMI複合体と相互作用する。RMI複合体のRMI1構成要素と直接相互作用する。

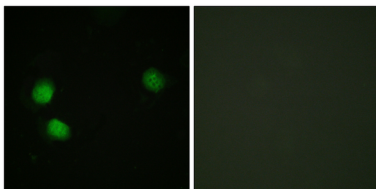
研究分野

相同組換え;

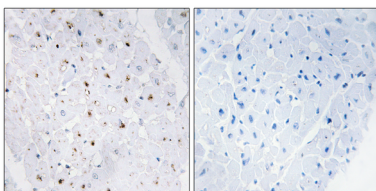
画像データ



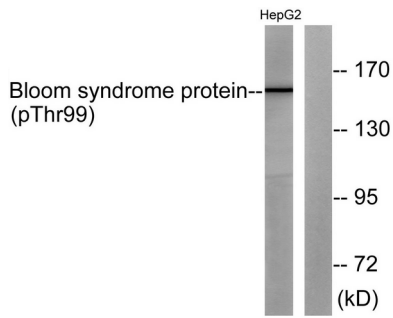
ブルーム症候群（リン酸化 Thr99）抗体を用いたリン酸化ペプチド（リン酸化左）および非リン酸化ペプチド（リン酸化右）免疫原の酵素結合免疫吸着測定法（リン酸化 ELISA）



ブルーム症候群（リン酸化 Thr99）抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



ブルーム症候群（リン酸化 Thr99）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Bloom Syndrome (Phospho-Thr99) 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。